

がんセンター

Kyoto University Cancer Center

- 外来がん診療部
- 入院がん診療部
- がん診療支援部
- がん教育研修部
- がん医療開発部
- 緩和ケアセンター



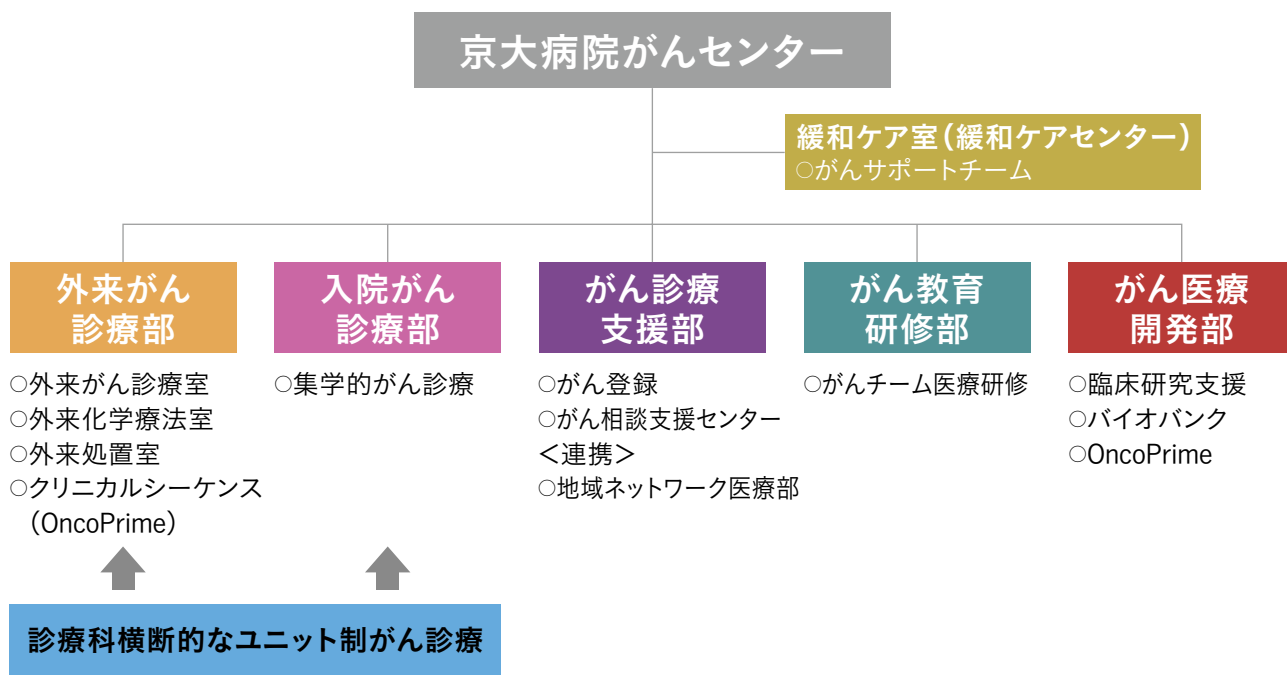
叡智を結集してがんの克服に臨む

京大がんセンターは国立大学病院初の「大学がんセンター」で、「緩和ケアセンター」「外来診療部」「入院診療部」「診療支援部」「教育研修部」「医療開発部」の6部門で構成されている。各部門には複数の診療科・部が参画し、診療科の枠を越えた集学的がん診療を行っている。特徴としては下記の4点が挙げられる。

- ①「各臓器別がん診療ユニット」を通して、診療科の垣根を越えて情報を共有し、客観的かつ迅速に治療方針を決定する外来がん診療
- ②併存疾患や治療による副作用に対し、すべての科による対応が可能
- ③トップレベルの研究成果を活用した、新規医療開発が可能
- ④卒前・卒後の一貫教育を通じて、数多くのがん専門医、専門職を養成、等

がんセンター体制

(2015.9.時点)



ユニット名	関連診療科	ユニット名	関連診療科	ユニット名	関連診療科
脳腫瘍・小児脳腫瘍	脳神経外科・放射線治療科 小児科	肺がん	呼吸器内科・呼吸器外科 放射線治療科	NET (内分泌細胞腫瘍)	がん薬物治療科・消化器内科 消化管外科・肝胆膵移植外科 呼吸器内科・呼吸器外科 画像診断部・病理診断部 内分泌・代謝内科 遺伝子診断部
頭頸部がん	頭頸部外科・放射線治療科	前立腺がん	泌尿器科・放射線治療科	クリニカルシーケンス	がん薬物治療科・消化器内科 病理診断部・遺伝子診断部 臨床システム腫瘍学 悪性制御研究ラボ
食道がん	がん薬物治療科・消化器内科 消化管外科・放射線治療科 頭頸部外科	原発不明・希少がん	小児科・がん薬物治療科 病理診断部・放射線診断科 関連診療科		
乳がん	血液腫瘍内科・乳腺外科 放射線治療科	大腸がん	がん薬物治療科・消化器内科 消化管外科		
膵臓がん	がん薬物治療科・消化器内科 消化管外科・放射線治療科	小児がん	小児科・血液腫瘍内科 整形外科・放射線治療科		
胃がん・GIST	がん薬物治療科・消化器内科 消化管外科	婦人科腫瘍	婦人科・放射線治療科		

外来がん診療部

Division of Outpatients Ward for Multidisciplinary Cancer Treatment



集学的がん診療ユニットにより 一人ひとりの患者さんを診療

外来がん診療部は、積貞棟1階と外来棟1階で運営され、外来がん診療室、外来化学療法室、外来処置室から構成される。

外来がん診療室では、腫瘍ごとに内科・外科系医師、放射線治療医、更に化学療法専門医や緩和医療・地域医療ネットワークのスタッフも加わった「各臓器別がんユニット(カンサーボード)」を形成し、複数の診療科の医師や各種医療スタッフが一同に会して検討を行い、客観的かつ迅速に治療方針を決定している。現在、前立腺がん、脳腫瘍・小児脳腫瘍、肺がん・中皮腫、食道がん、乳がん、膵がん、大腸がん、胃がん・GIST、頭頸部がん、小児がん、原発不明がん・希少がん、骨転移、NET、家族性腫瘍、婦人科腫瘍、クリニカルシーケンスの各ユニットが運営されている。

入院がん診療部

Division of In-patients Ward for Multidisciplinary Cancer Treatment



個室を多く配置した 集学的がん治療専門病棟

入院がん診療部は、積貞棟2階において総病床数36床(総室16床、個室20床)で運営している。特徴としては、抗がん薬治療や放射線治療による「集学的がん治療専門病棟」であること。そのため患者さんのプライバシーを確保すべく、個室を多く配置している。

また、外来がん診療部門の看護師・薬剤師とも密に連携し、外来から入院まで一貫して専門性の高いがん診療を提供しており、抗がん薬治療や放射線治療の副作用出現時にも迅速な対応が可能である。さらに、未来のがん医療の発展のため、臨床試験や治験を専門に扱う病棟としての機能も備えている。

がん診療支援部

Division of Supportive Care for Cancer Treatment



患者さんと家族のさまざまな苦痛を 緩和するために

がん診療支援部は、外来がん診療部および入院がん診療部と協力して、患者さんが安心して医療を受けられるよう支援することを目的としている。窓口となるがん相談支援センターは、積貞棟1階にて、がん診療に関する情報提供、地域の医療機関や医療従事者に関する情報提供、患者さんと家族の療養上の相談、緩和ケアに関する相談などを行っている。また、がん診療や生活全般に関する相談を院内外より受けている。また、地域ネットワーク医療部および緩和ケアセンターと密に連携し、患者さんが居住する地域において質の高い診療を継続して受けられるよう、相談と支援を行っている。

がん教育研修部

Division of Education and Training for Cancer Management



高度ながん治療を実践する医療人を育成

がん教育研修部は、高度ながん治療、がん研究を推進し、新しい医療の開発を担当できる医療人を、大学と病院の有機的連携により育成する目的で設置されている。

医学部生の教育においては、臨床腫瘍学の臨床実習を受け入れ、基礎教育に努めている。大学院教育の取り組みとしては、文部科学省がんプロフェッショナル養成プランにおいて様々な領域、職種のがん専門職コースを設置し、新しいがん研究、がん診療の開発を推進している。この次代を担うがん研究者・医療人養成プランは5大学連携プロジェクトである。がんチーム医療の実践教育を目的とするインテンシブコースを外部施設とともに遂行している。腫瘍学に基づく集学的がん診療の開発と展開、緩和医療、がん患者ケアに関する医療人の養成、研修を行っている。

がん医療開発部

Division of Innovation for Cancer Medicine



臨床研究の質の向上と 最先端のがん医療開発をめざして

がん医療開発部は、「京大病院における臨床研究の質の向上」と「最先端のがん医療開発」を目的に設置された。

前者は、質の高い臨床研究を実践するための支援業務で、対象とする研究は、京大病院内の医師などが実施する、いわゆる「研究者主導臨床研究」である。特に厚生労働省「がん臨床試験基盤整備事業」に採択されたグループが実施する多施設共同研究、およびそれに準じる恒常的な多施設共同研究グループが実施する臨床研究が支援対象となっている。後者では、がん患者から、がん組織の一部や血液などの検体の提供をいただき、未来の医療につなげる「がんバイオバンク事業」を行っている。いずれも看護師、薬剤師、臨床検査技師などの医療資格を有する専門スタッフが対応している。

緩和ケアセンター

Palliative Care Center



チーム医療によるQOLの向上と 地域における緩和ケアの統合をめざす

当院は、京都府がん診療連携拠点病院として質の高いがん医療を提供するとともに、緩和ケアの拡充を目指している。緩和ケアセンターは2014年7月3日に新設され、当院での緩和ケアを提供するだけでなく、地域での緩和ケアチーム・緩和ケア外来・緩和ケア病棟等を有機的に統合することも目標としている。

緩和ケアセンターの活動としては、①患者さんの身体的苦痛や心理社会的苦痛などのスクリーニング、②緊急緩和ケア病床の確保(緊急入院体制の整備)、③がん患者カウンセリング、④専門相談支援、⑤地域連携支援、⑥教育・研修、⑦診療情報の集約・分析などがある。2014年度には、京都大学緩和医療研究会を立ち上げ、緩和医療に関する講演会や事例検討を5回開催し、教育・研修・研究の場を提供した。

現在、京都府下において緩和ケア病棟のある医療機関は7カ所ある。また、地域がん診療連携拠点病院は7カ所、京都府がん診療連携病院は5カ所、京都府がん診療推進病院は7カ所ある。今後、これらの医療機関と地域連携を推進していく予定である。